
第5回 町田市交通マスタープラン推進委員会 会議録

開催日時： 2009年1月20日（火） 午前10時～午前11時30分

開催場所： 町田市民文学館「ことばらんど」 2階 大会議室

出席委員：（敬称略、順不同）

秋山哲男、兵藤哲朗、赤星健太郎（代理：千葉）、久松宏（代理：福浪）、安東季之、
野崎誠貴、安達正晃（代理：飛松）、落合敢二、三木健明、清水隆治（代理：堀籠）、
玉野利章（代理：清水）、皿嶋裕規、加藤弘、石井幸隆、柳澤秀秋、和津田郁美、
小山七平、垣見龍次、佐藤勲、桑澤利京、遠藤美津子

傍聴人：1名

事務局：高橋豊都市づくり部長、渋谷晴久交通計画担当課長、松原夏樹交通計画係長、
奥村繁樹主任、保坂陽子主事、(株)日本能率協会総合研究所（3名）

【会議次第】

1. 開会挨拶
 2. 資料確認
 3. 議題
 4. 閉会
- *****

【議題】

1. 前回議事と対応方針について
 2. 進捗状況及びスケジュールについて
 3. 交通施策ニーズ調査結果の報告（速報値）について
 4. 重点施策（候補）の方向性について
- *****

【議事】

<開会挨拶>

省略

<資料確認>

省略

<議題>

1. 前回議事と対応方針について

[資料説明]

前回議事と対応方針について：資料1

事務局による説明（省略）

2. 進捗状況及びスケジュールについて

[資料説明]

進捗状況及びスケジュールについて：資料2

事務局による説明（省略）

3. 交通施策ニーズ調査結果の報告（速報値）について

[資料説明]

交通施策ニーズ調査結果の報告（速報値）：資料3-1

事務局による説明（省略）

[意見等]

(A委員) 回収率30%となっているが、一般的にはどう評価されるのか。

(委員長) 市民アンケートにおいては3割は普通と言える。

(B委員) ご参考までに、交通の調査である東京都市圏パーソントリップ調査では、都内の回収率が20%強くらいであることと比較すると、30%は高い方と思われる。

(事務局) 最低限20%、目標を30%と設定していた。結果として30%ということで解析にも耐えられる票が回収できた。

(C委員) 13ページに「都市の活力」という言葉があるが、その意味は何か。具体的イメージが伝わらなかったため、重要度が低く出ているのではないか。

(事務局) 資料3-1の8ページで、「東京都市圏西部地域の拠点として発展を支え、都市の活力を維持・向上していく」とあるが、交通が外出等の行動を支える基盤としてどれだけ活発化させられるか、ということと考えている。ただ、最近環境問題の視点が強くなっていること等によりアンケート結果が低く出ていることもあると思われる。

(委員長) 「都市の活力」の事例として道路・鉄道ネットワークと、中心市街地の歩行空間の両方が入っている。「活力」自体がイメージしにくい言葉であるが、重要度が低く出たのはピンポイントで言葉が選択されなかったこともあるのではないか。

(事務局) 補足であるが、参考資料2-1の問5に事例を挙げさせていただいている。

(委員長) 17ページで「交通渋滞や道路混雑の解消」、「路線バス利便性向上」は重要度が高く満足度が低いため、ここに重点をおかなければならない。「道路形成」も「環境負荷の少ない交通利用」も交通渋滞と類似の項目である。公共交通の充実のためには道路が不足している、といったようなまとめ方が全市的施策の方向ではないか。

中心市街地については満足度が高く、全市的施策の方が改善の優先度が高いように思われるが。

(副委員長) こうした商業集積がある町田に住みたいと思って居住してきた市民が、商業集積には満足しているという意見が反映されたのではないか。

歩行者優先の交通対策や中心市街地でこういった交通対策をするかを聞いたかつ

たのだが、回答者に伝わらなかった、もしくは思い切った歩行者優先の空間整備は日本ではあまり見られないため、イメージできなかつたと思われる。

現在満足度が高いから何もしなくてよいわけではなく、さらにより満足度を高める施策が必要である。

(委員長) 都心部の整備状況が日本全体として低い中での評価ではという議論もある。

満足しているからやらなくてよいのではなく、より高い水準のものをつくるべきという理解になると思われる。

4. 重点施策（候補）の方向性について

[資料説明]

重点施策（候補）の方向性：資料 3-2

事務局による説明（省略）

[意見等]

(D委員) 「交通渋滞や道路混雑の解消」の交通渋滞について、基準はあるのか。

(事務局) 交差点を走る車両数、滞留している車両数については交通量調査を行っている。

また 8 ページについては走行速度が時速 20km 未満の区間を特に渋滞がひどいとしているため、この速度の向上を図る。

(委員長) 渋滞する時間帯、場所、程度とその原因がポイントであり、先の話だがいずれ必要となるので、スクリーニングしていただきたい。

(C委員) 都市計画道路の整備方針・計画がきちんとしていないと渋滞は解消しない。東京都や町田市はどのように考えているのか。

(事務局) 多摩地域における都市計画道路の整備方針については、細切れの部分をつなぐ、または渋滞解消に効果を考慮し、計画の 10 か年の中で実現可能と思われる道路を抽出した。

(委員長) 過度な自動車利用のため、都市計画道路が全部できても町田の渋滞は解消しないことを念頭においていただきたい。

その上で対策を講じるために、都市計画道路ができて渋滞が解消する地域とそうでない地域の判別をしっかりとできるよう、その調査もお願いしたい。

(E委員) 町田市の現在の都市計画道路の整備率は半分ほどだが、10 か年やっても数%しかあがらず、また成瀬街道等は着手予定はない。しかし課題の箇所の重ね合わせをすることでできる対策が違ってくるため、局所改良で解消可能など、今後検討していただきたい。

(委員長) 都市計画道路の整備率は現在でも東京全体で 6 割いくかどうかと思われる。全て完了するには非常に時間がかかるため、都市計画道路に全面的な期待をするのではなく、総合的・戦略的に考えつつじっくりやる必要がある。

(A委員) 路線バスについて利用者の中に年に数回、月に数回利用の人も入っているが、こういった人も含めて路線バス対策の重要性をピックアップするのはどういった意味か。

(事務局) 7ページのデータについては週1回以上の利用者のデータとなっている。

(委員長) パーソントリップ調査に基づく交通手段分担率は、ある1日の行動であるため割合が低くなっているが、バスを代表交通手段としている人が4.5%というのはかなり多い方である。

(F委員) 通勤・通学の人々がどの程度バスを利用して最寄駅に行っているかはわからないか。

(事務局) 市民アンケートでは目的までは聞いていない。なお、パーソントリップ調査は平日の移動が対象となっている。

(委員長) 平日の通勤でバスを利用している人、自動車による移動の割合がわかると傾向が見られるため、データの入手やクロス集計が可能であれば、分析結果を教えてください。

路線バスの重要度と満足度が高くなっているが、それぞれについて年齢や居住地域によってかなり変わると思われる。クロス集計をお願いしたい。

また福祉交通の満足度が高いが、元気な人は障害者のことを考えずに回答している可能性が高いので、年齢層によるクロス集計がほしい。

クロス集計の際には、意味論から見て、またどういう対策をするかを考慮した上で行ってほしい。

(C委員) 自転車の満足度が最も低い、重要度はさほどでもない。町田市では施策の柱になっておらず、市民の認識も低い。自転車は自動車の代替となりうる手段であるから、町田市でも自転車施策を柱に位置づけてほしい。

(委員長) 自転車についても、利用者と非利用者では結果が異なると思われ、クロス集計が必要である。6ページについては、全体票とクロス集計ではかなり違ってくるという仮説に基づいてクロス集計を行ってほしい。

13ページの政策の中で自転車交通が弱いのは確かであるため、「総合的な路線バス対策」の部分は、「総合公共交通対策」のように、自動車の負荷を軽減してグリーンモードを利用するといった読み方ができるような表現ができないか。

また中心部の物流対策も必要だが、中心部の回遊性を高める交通の強化がより重要である。駐車場や物流のコントロールが背景にあると思うが、伝え方によって見え方が異なる。「総合的」交通戦略であるため、様々な交通手段が見えて、その中の重点がバス路線対策であるという位置づけにしてほしい。

11ページの路上駐車の種類構成について、乗用車の中に業務と買い物があるのではないかと思うが。

(副委員長) これはいわゆる白ナンバーによる判断だと思うが、おそらく町田では業務は緑ナンバーになるのではないか。33%の大半は買物ではないかと思われる。

自転車の満足度が低い、その原因を分析できるような関連データを集めて精査すべきだと思う。

(委員長) 総合交通戦略の中に自動車と自転車という項目を「総合的路線バス対策」の裏側に入れるかという点と、物流対策の裏側に歩行者空間対策や駐車対策を入れるか等の点について工夫が必要である。

バイクや自転車についてどうするかは考えなければならない項目である。大きな柱の下に別の対策を入れないと全体のバランスに欠けるためその方向について考えてほしい。

(C委員) 13 ページに「地域活性化懇談会より」という図があるのは中心市街地だけでなく各地域も活性化させるということか。

(事務局) 町田市全体の活性化を検討している。北部丘陵とのつながりや、「農」の観光化等を考える中で、交通は基本的部分を支えている。町田市の中心市街地は市外の圏域も含んでおり、それも含め総合交通戦略に関連するものを整理していくという考え方になる。

(委員C) その資料があれば出していただきたい。

(事務局) あるものを提供する。

(委員長) 今日のご意見を踏まえ、重点施策の方向性を検討していただきたい。